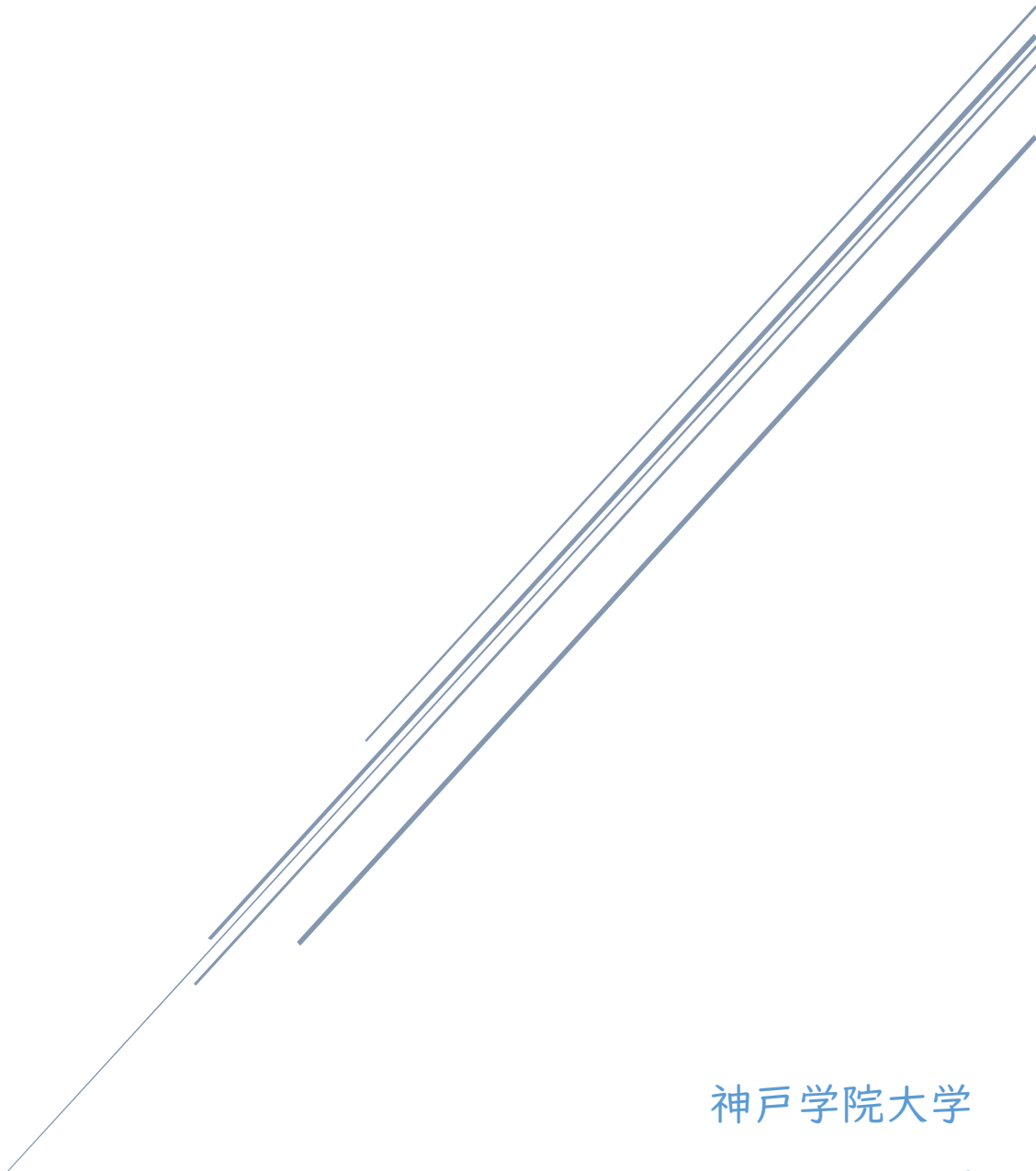


神戸学院大学授業アンケート 報告書

2025 年度後期



神戸学院大学
全学教育推進グループ

1.神戸学院大学授業アンケートについて

本学では、教員の授業方法の改善および教育力向上を目的とし、「授業アンケート」を実施しております。

アンケート集計結果については、各学部等に返却するとともに、

アセスメント・プラン(<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/assessment.html>)

「授業科目レベル」で活用しております。また、各学部等の集計結果を公表しております。

2.授業アンケートの実施方法と内容

2.1 実施授業科目および対象者

授業科目：各学部等が選定した科目（実施科目数：1,401 科目）

対象者：上記科目を履修している学生（延べ人数。対象者数：71,989 名）

2.2 実施日程

総合リハビリテーション学部、栄養学部、薬学部：2025 年 11 月 16 日（木）9 時 00 分～2026 年 2 月 6 日（金）
23 時 59 分

法学部、経済学部、経営学部、人文学部、心理学部、現代社会学部、グローバル・コミュニケーション学部、共通教育センター、スポーツサイエンス・ユニット、心理学研究科：2025 年 12 月 11 日（木）9 時 00 分～2026 年 2 月 6 日（金）23 時 59 分

2.3 実施方法

実施期間中の該当授業科目の授業時間内に原則として実施する。学生は、インターネットを通じて Web システムより回答する。

2.4 設問の概要

全学部・全科目共通の設問 10 問（選択式、4 件法）および自由記述欄から構成する。

経営学部および薬学部については独自の設問を設けている。

2.5 教員へのアンケート結果提供方法

教員は WEB システムにアクセスし、担当科目のアンケート結果を確認する。

2.6 学生へのフィードバック

各教員は、科目ごとにアンケート結果を確認した上で、授業アンケート終了後に WEB システムのコメント欄へ入力する。学生は WEB システムを通じて、回答した科目の集計結果および教員コメントを閲覧することができる。

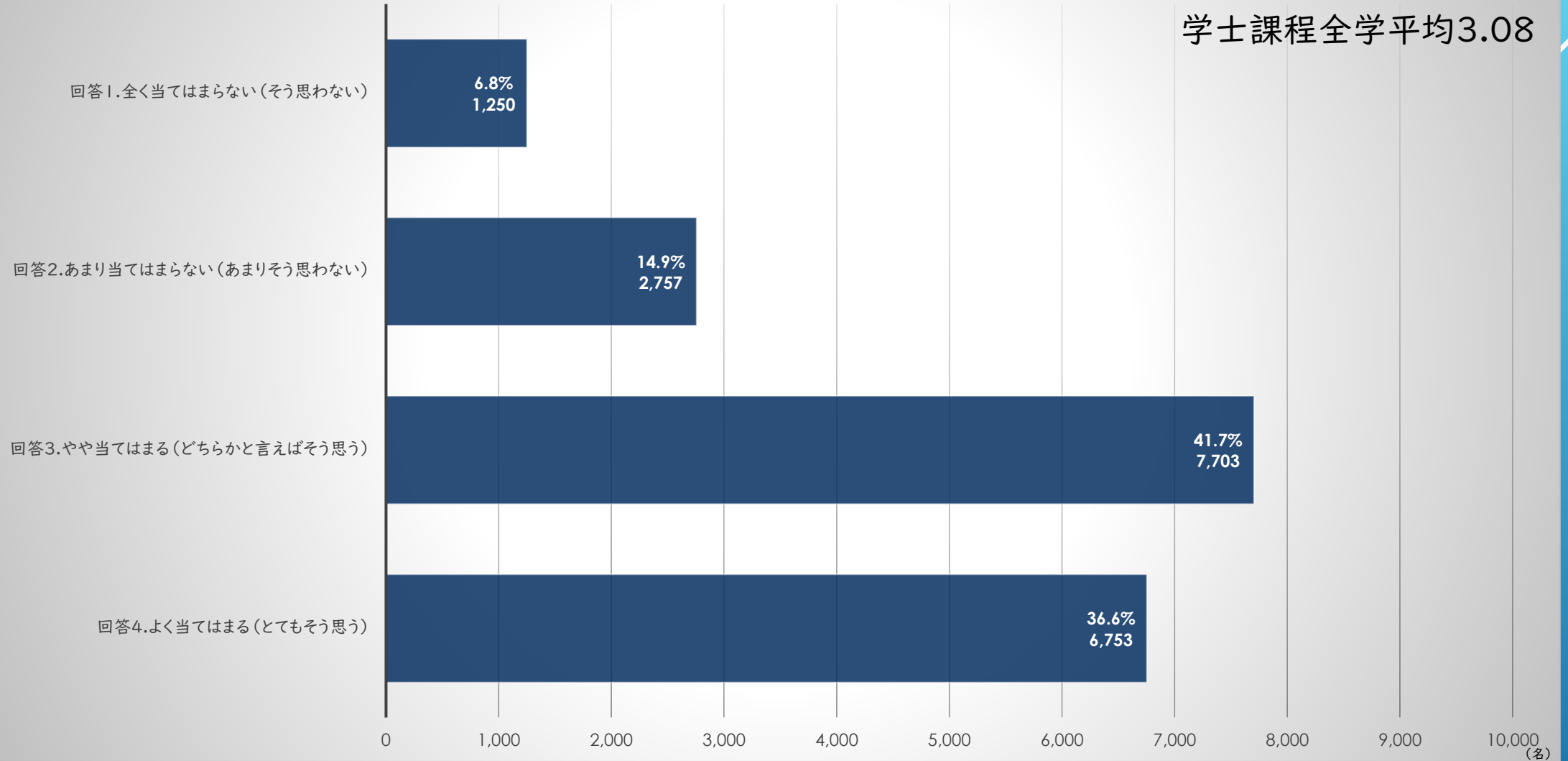
3.授業アンケートの結果

別紙「2025 年度後期授業アンケート(学士課程集計)」参照。

2025年度後期授業アンケート (学士課程集計)

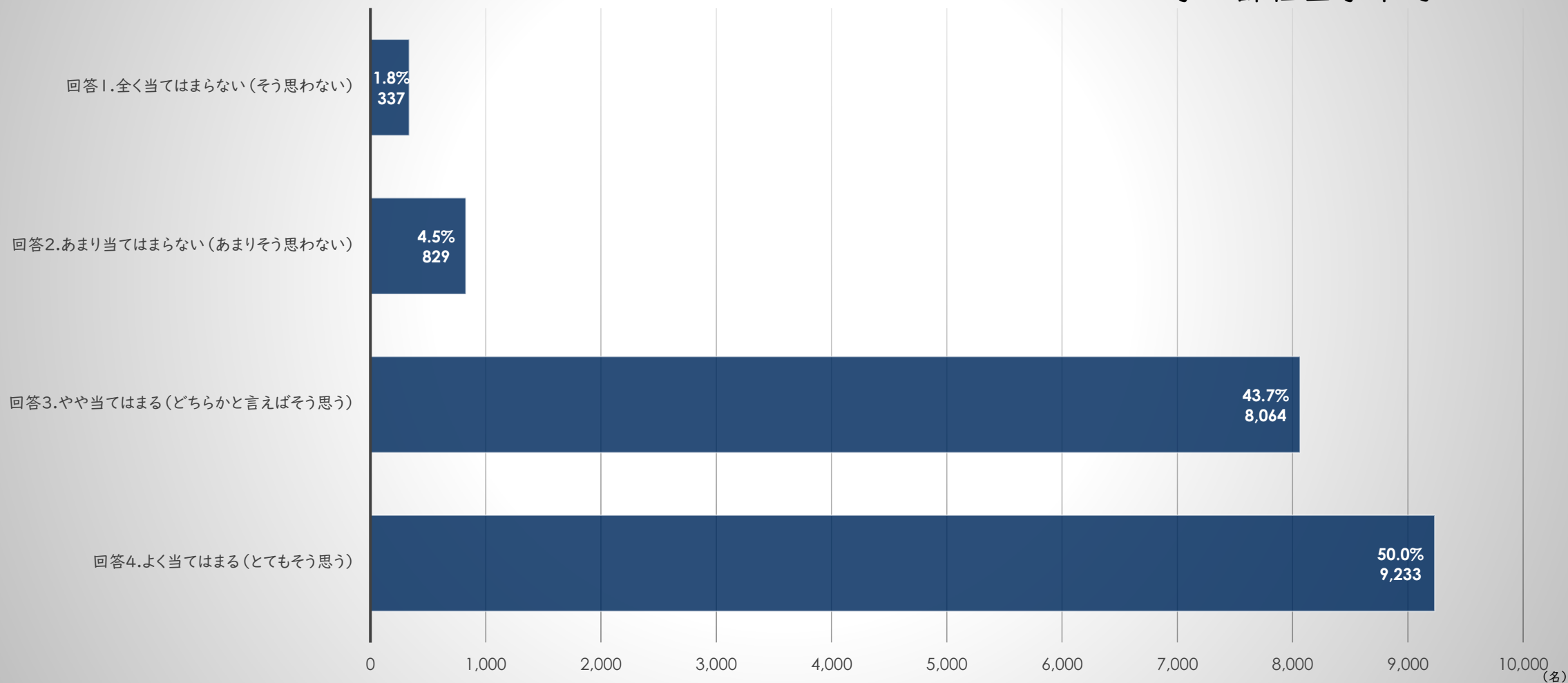
設問1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか

学士課程全学平均3.08



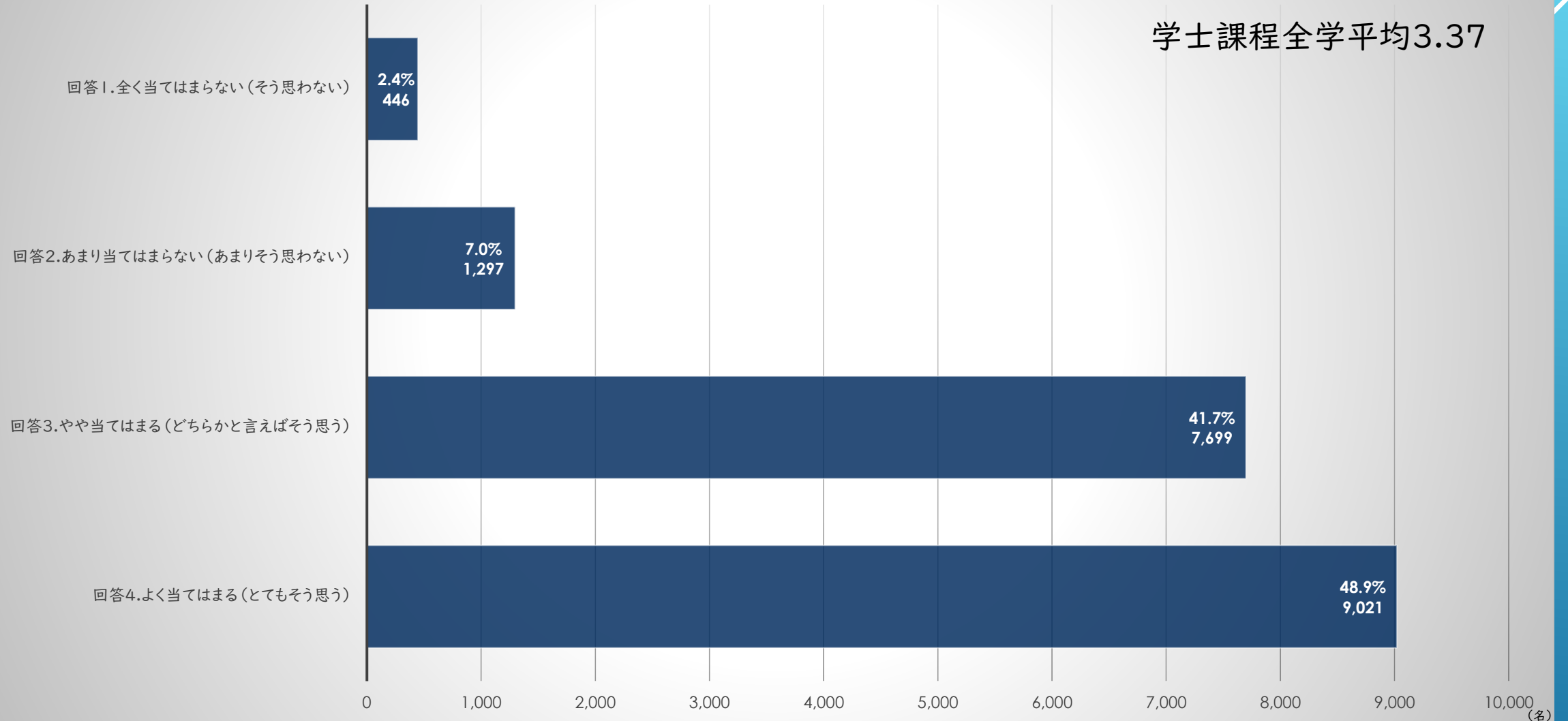
設問2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか

学士課程全学平均3.42



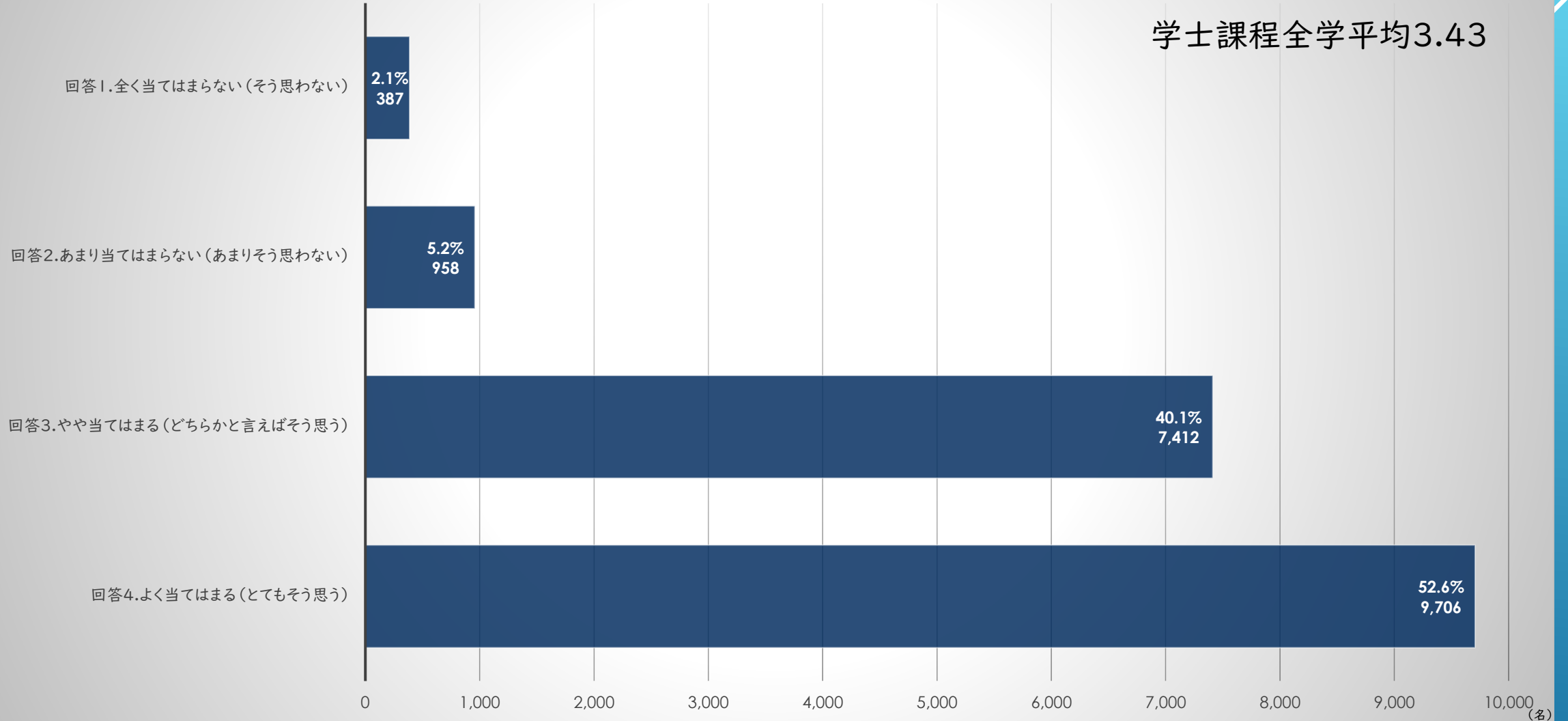
設問3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか

学士課程全学平均3.37



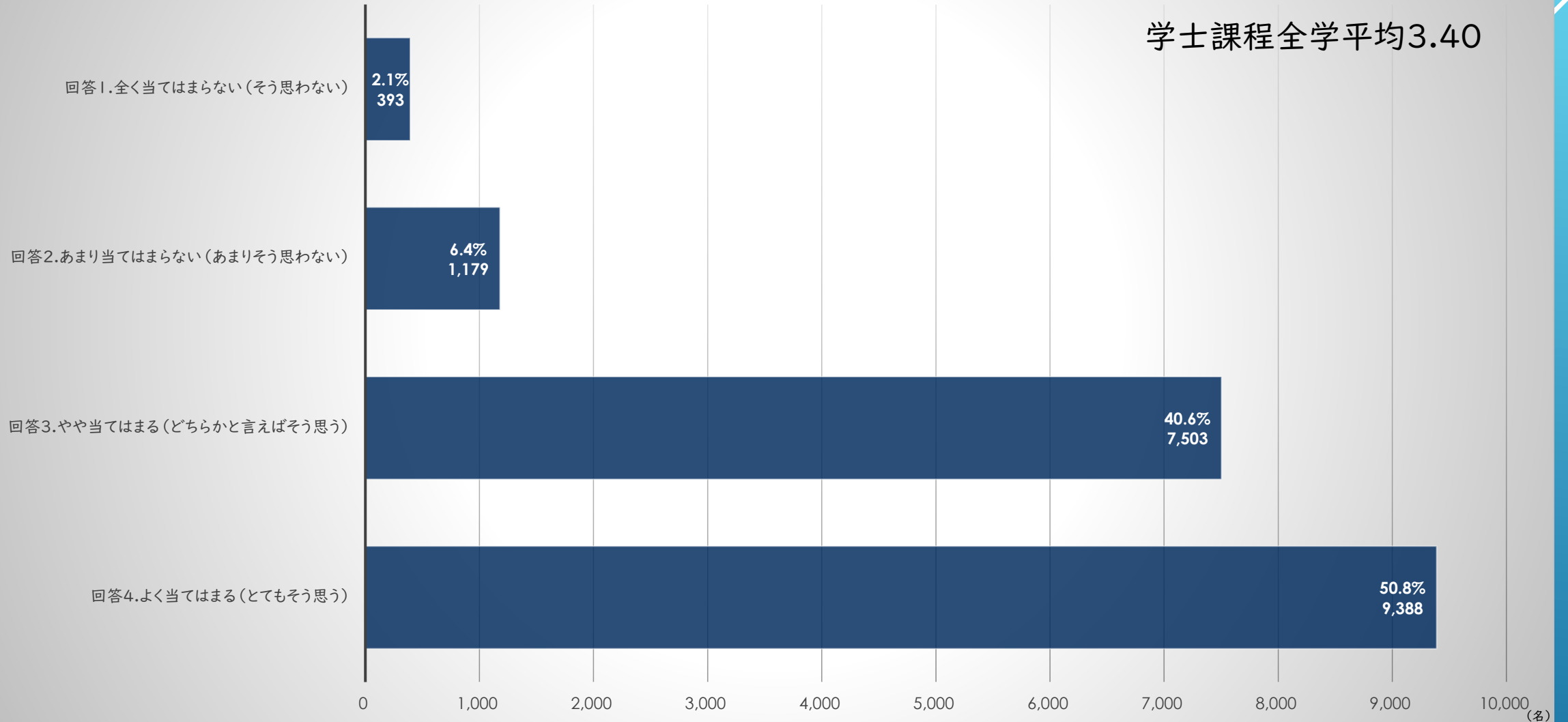
設問4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか

学士課程全学平均3.43



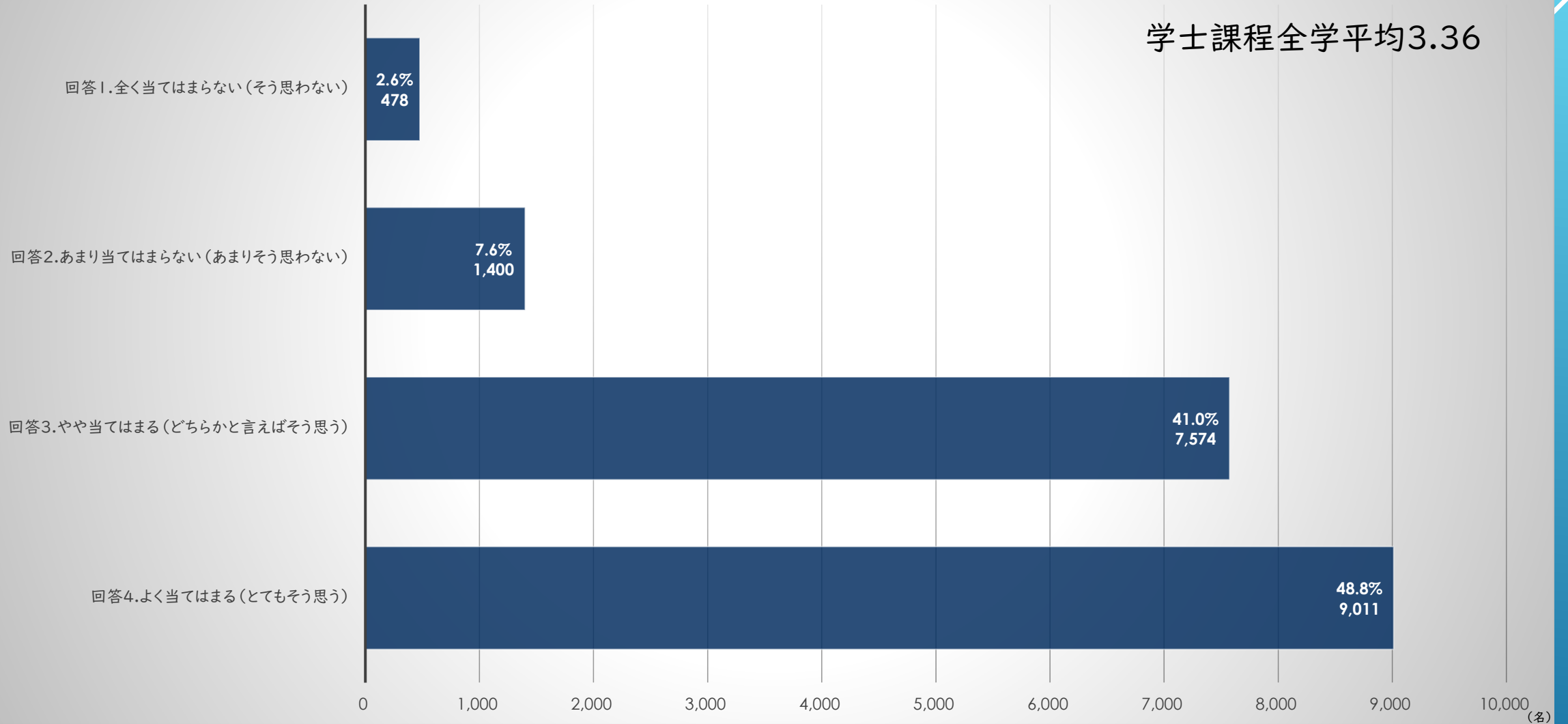
設問5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか

学士課程全学平均3.40

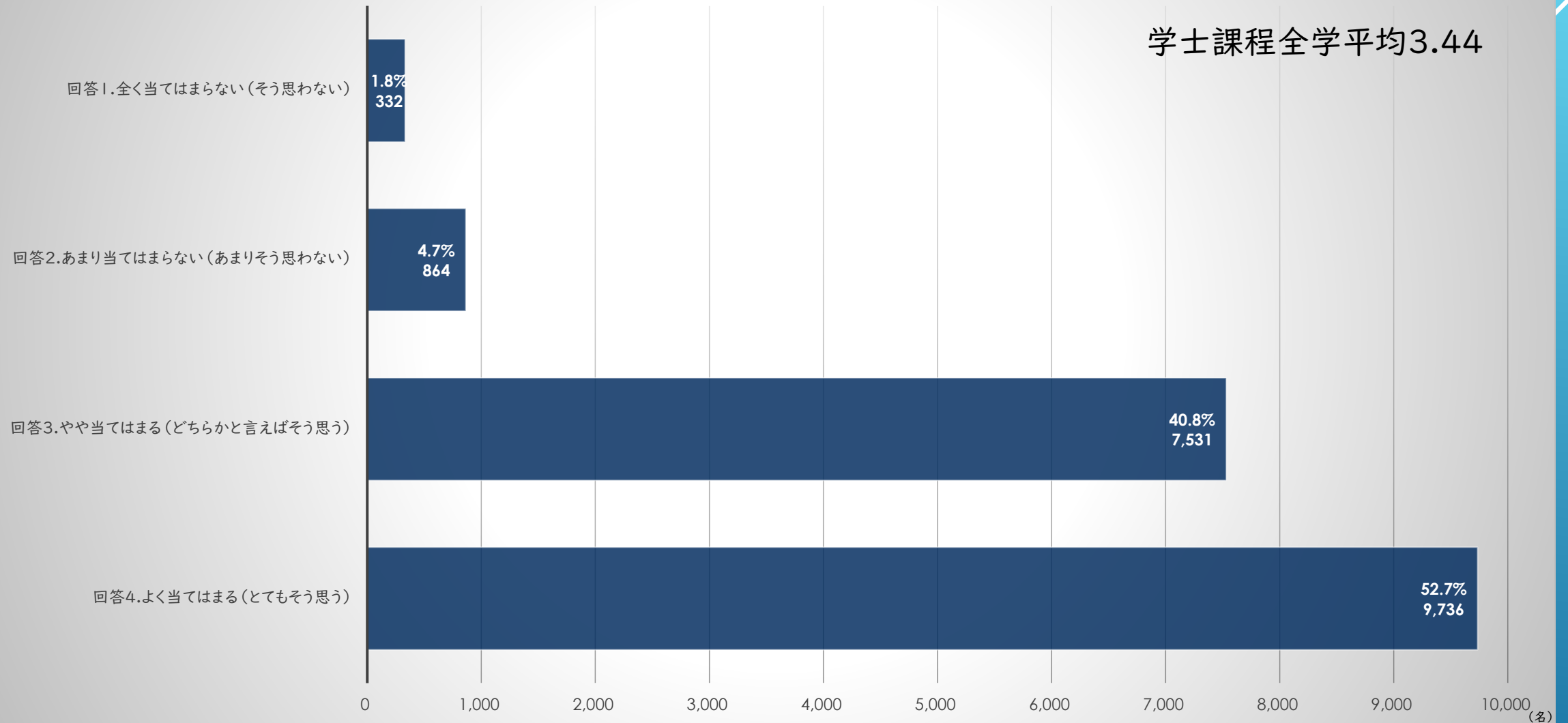


設問6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようとしていると感じましたか

学士課程全学平均3.36

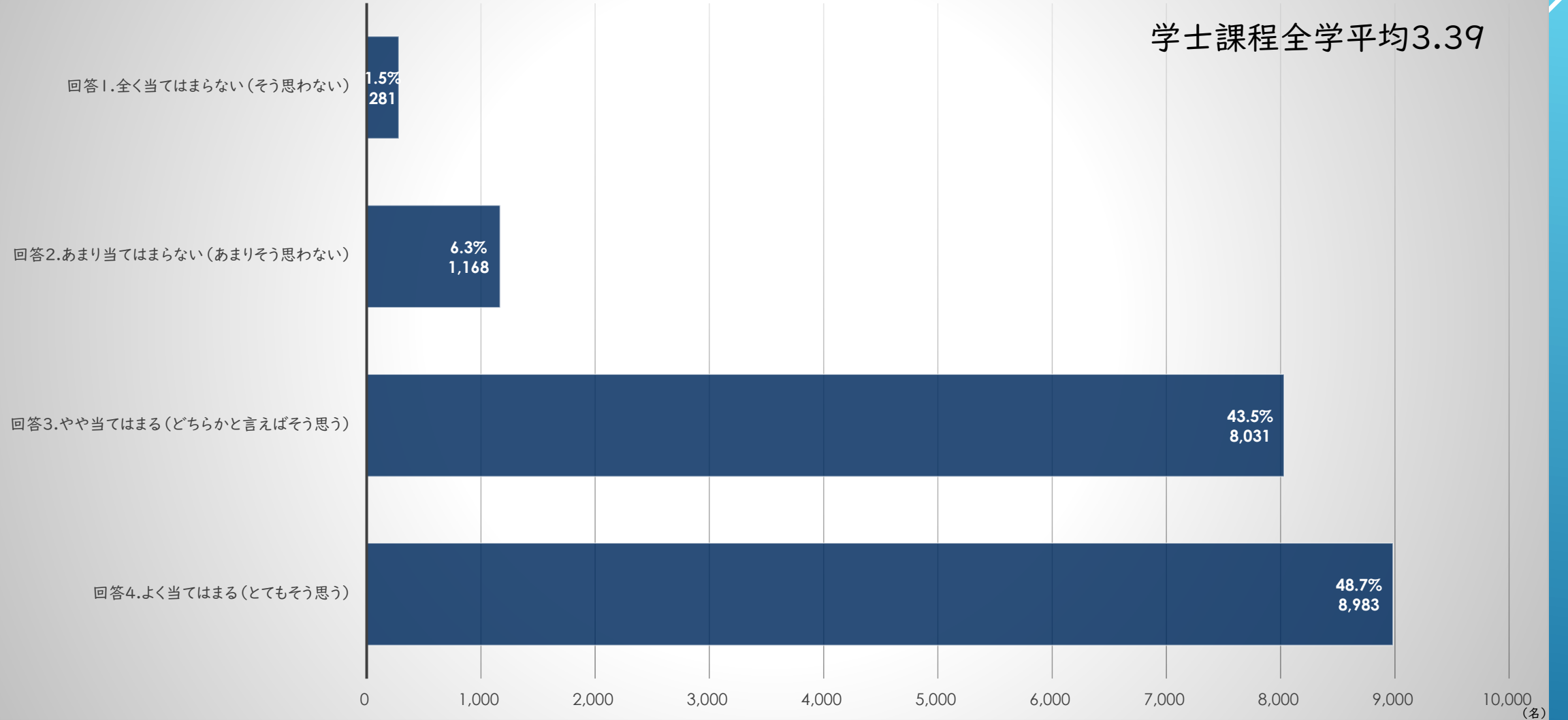


設問7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか



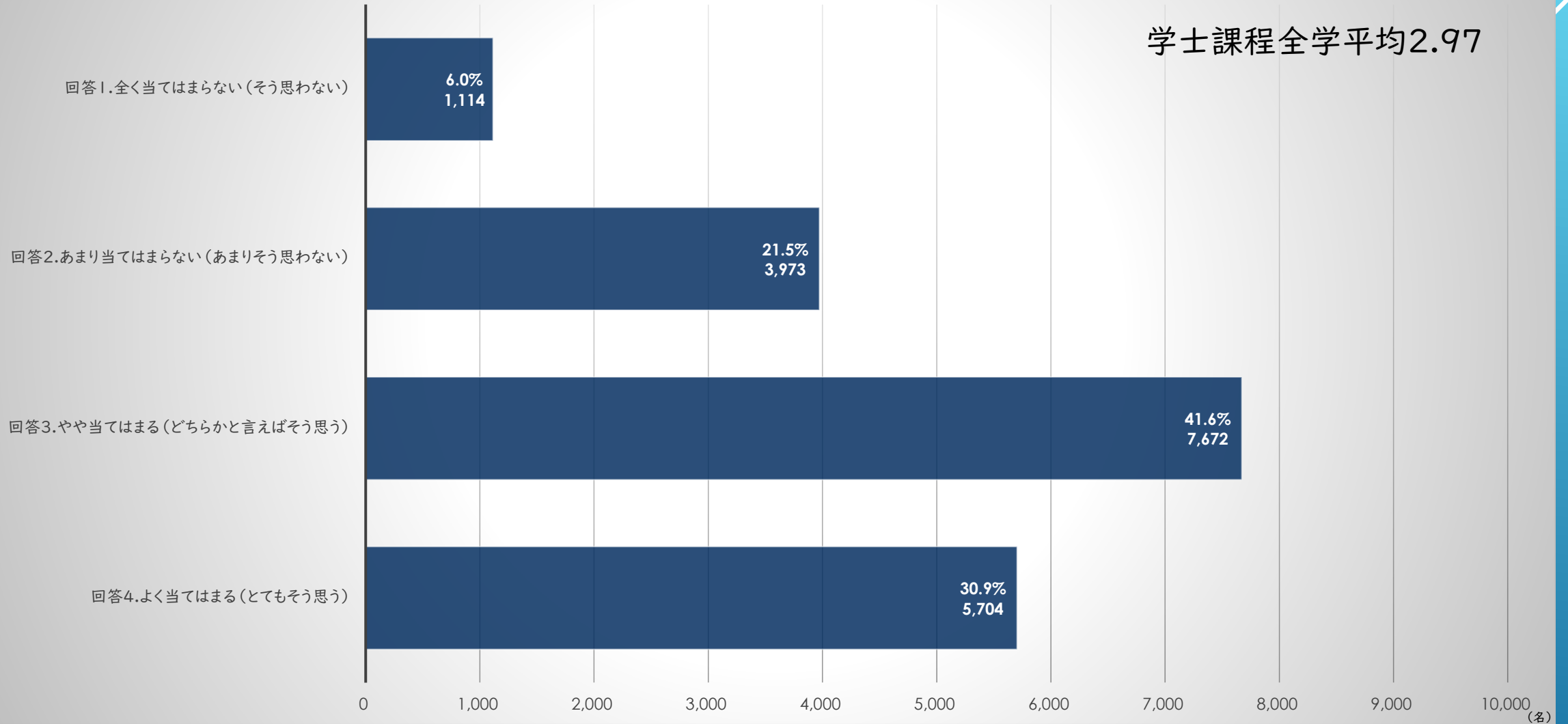
設問8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか

学士課程全学平均3.39

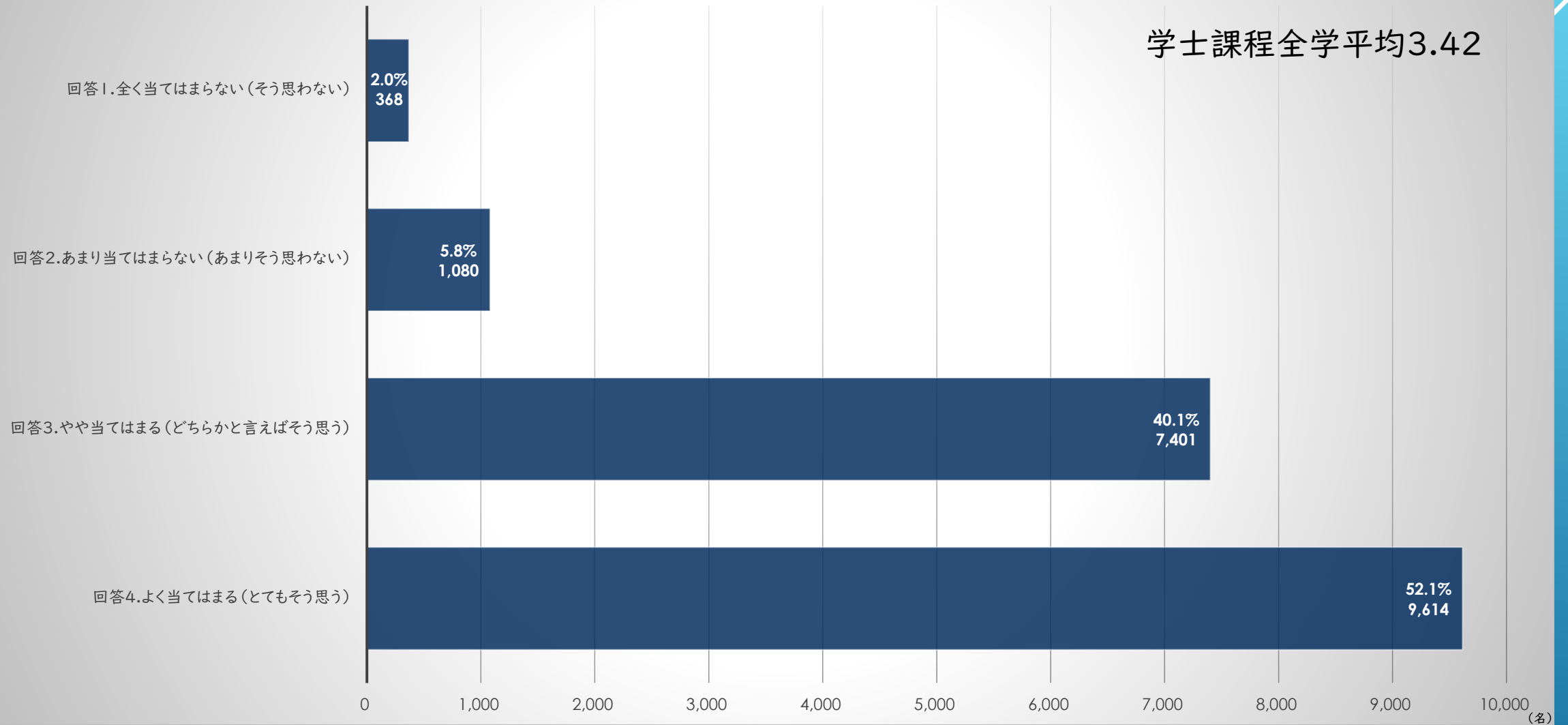


設問9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか

学士課程全学平均2.97



設問10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか



2025 年度後期授業アンケート報告書

法学部

【実施期間】2025 年 12 月 11 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】61 科目

【回答率】8.3%

【結果の概要・分析】

法学部における 2025 年度後期授業アンケートの実施状況について、実施科目数は61科目、当該実施科目における履修者数は6,597名、うち回答者数は550名となっており、回答率は 8.3%であった。今年度前期の回答率 17.1%と比べて、回答率としてはその半分に落ち込んでしまった。大学全体での回答率は25.68%であり、法学部では前期に続き回答者数が少なかったといわざるを得ない。また、昨年度後期は 10.5%であり、今年度前期に少し上昇していたものの、低い数値となってしまった。今回のこの低い回答率の原因は何かしっかりと検討していかなければならないが、今後、アンケート実施期間内の授業時等において、教員から学生に対して、より一層アンケート実施の周知を図り、アンケートへの回答協力を強く求めていく必要があることに変わりはない。(大学全体の回答率も前期より6.75%下がっており、この点の原因もどこにあるのか、大学全体としても引き続き要検討の課題であろう。) 本年3月11日の学部教授会において上記低い回答率の原因につき話し合い、本学部としてはアンケートへの回答がやや学生任せになっている面があること、及び、授業時間内で回答時間をとっているケースが少ないこと等により、今後はアンケート回答期間内において授業時間中に回答してもらう時間帯をとるよう各教員に強く協力を求めること、また、学生には今後の授業改善のためのアンケートである旨を今まで以上に周知し、回答への協力を求めていくこととした。

栄養学部は回答率 55.7%と相変わらず高い数値を出しておられ、グローバル・コミュニケーション学部 (50.1%) や総合リハビリテーション学部 (32.9%) も高い回答率であり、前期に引き続き、それらの高い回答率になっている学部の対応方針を参考にしつつ、本学部においても回答率向上を図っていく必要がある。

また、アンケートの設問 11 自由記述欄における意見等では、法律に関して具体例を挙げながらの説明やスライドを使用した説明が分りやすかった等の肯定的な意見も多数あるものの、逆に、説明が難しすぎる、黒板の字が見づらかった、スライドやスクリーンが席によっては見えにくかった等の意見や、授業内容とは関係ない話が約 30 分にも及んでいたという批判等、改善を求める声も複数出されていた。回答率自体が前期よりもさらに低いうえに、自由記述欄に意見や感想等を記した学生はさらに少数のため、その点は勘案してこれらの意見を捉えていかないといけないであろうが、学生の真摯かつ適正な意見に対しては、しっかりと耳を傾けて、学部としてさらなる改善に努めていかなければならない。上述の教授会において、具体的には各教員がアンケート結果をしっかりと確認し、学生にフィードバックしていくこと、特に批判的な意見や感想が記されていた場合には、各自で真摯に受け止め、検討のうえ、学生へのフィードバックを徹底していくことが確認された。

【授業改善への活用方法】

前期と同様になるが、まずは来年度以降、アンケートの回答率がもっと上がるよう真剣に検討し、さらなる工夫をしたうえで、学生への協力もまたより強く求めていかなければならない。

各科目のアンケート結果や自由記述欄の意見等を、各担当教員が真摯に受け止め、とりわけ改善を求められている点について事実であるならば、その原因を教員各自でも改めて検討し、必要な場合には今後改善するように努めていかなければならない。具体的には既に【結果の概要・分析】欄において記したが、もう一点記しておく。アンケート結果につき各教員が受け取ったメールからログインして見るような仕組みになっているが、(この方法ではわざわざログインしてまで見ない教員もいるかもしれないので)当該結果をプリントアウトしたもので各教員に返却し、学生へのフィードバック率を高め、その次のアンケート機会によりアンケート自体への意識を高め、行ってもらうことも重要ではないかという意見も出され、一定の理解を得ていた。

各教員が個々に検討・対応していただくだけではなく、具体的に、この 2025 年度 3 月の教授会においても、今回のアンケート回答率を踏まえ、学部教員全員で情報共有・検討したうえで意見を出し合ったが、次年度以降も引き続きさらなる検討を加え、改善策を模索していくこととなった。

2025 年度後期授業アンケート報告書

経済学部

【実施期間】2025 年12月11日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】28科目

【回答率】24.3%

【結果の概要・分析】

■ アンケートの対象科目について

授業アンケート対象科目は、ディプロマ・ポリシーもしくはカリキュラムチェックに適した主要科目（例：演習・実習を除いた必修科目など）のみで1学部等につき30%程度の科目数を目安、専任教員は1年間のうち1度は授業アンケートの対象となるように選定との要件から、28科目を選定した。対象の科目数が他学部と比較すると少ないことについては、経済学部の基幹・リテラシー・コース科目のほとんどが「4単位もの」であるためでもある。

■ 回収率の状況について

2025 年度後期授業アンケートは実施科目数 28、実施科目履修者 2,360 人、回答者数 574 人、回答率（回答者数÷実施科目履修者数）24.3%であった。

表1は、2023 年度からの授業アンケートへの回収率の状況をまとめたものである。回答率は昨年度の同期比で、6.3 ポイントのアップとなった。後期の授業アンケート実施については、経済学部長室より学部教員に向けてアンケート開始後の12月と最終授業週間前の1月に各1回、マニュアルのURLおよび周知用スライドを添付して協力依頼（リマインド）を行った。これらも回答率の上昇につながったのではないと思われる。

一方、2025 年度前期の回収率と比較すると6.9ポイントの減少であった。年度の最終授業では学生達も定期試験に気持ちが向きがちなため、回収率向上には演習でのアンケート実施依頼等も必要と思われる。前期との比較については、全学部等合計でも前期が32.43%、後期が25.68%と低下する傾向が見られる。

表1 授業アンケート回収状況（経済学部）

	前期			後期		
	回答者数	履修登録者数	回答率	回答者数	履修登録者数	回答率
2023 年度	846	3,280	25.8	737	2,279	32.3
2024 年度	994	3,588	27.7	405	2,244	18.0
2025 年度	1,077	3,455	31.2	574	2,360	24.3

出所：全学教育推進機構 授業アンケート より

<https://www.kobegakuin.ac.jp/iphe/enquete/>

■ 設問への回答の結果

表2は、設問への回答の結果を示したものである。

10の設問について「学士課程全学平均」（大学全体の平均）と「経済学部の平均」を見ると、設問1「履修前にシラバスを読みましたか」、設問2「あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか」、設問9「あなたは、予習・復習といった授業時

間外学習を行いましたかについて、経済学部 averages that of the entire university is higher. In other questions, it is slightly lower.

表 2 設問への回答の結果 (2025年度後期・経済学部)

設問	経済	全学
1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか	3.30	3.08
2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか	3.48	3.42
3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか	3.32	3.37
4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか	3.41	3.43
5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか	3.39	3.40
6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか	3.33	3.36
7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか	3.41	3.44
8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか	3.37	3.39
9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか	2.98	2.97
10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか	3.39	3.42

回答結果は平均的であるが、自由回答には下記のようなものがあった。

「グラフなどを多用していてイメージがしやすかった。また、ワンドライブで資料が共有されていたので印刷が見にくい箇所も確認できてよかった。難易度とスピードもちょうどよかった」(設問3に該当)

「スマホや私語の禁止をしっかりとっていて授業に集中できやすかった。小テストがあり、復習がしっかりできたのが良かった。」(設問4, 設問5に該当)

「簡単そうな問題でもしっかりと詳しく説明をしてくださっていたので理解しやすかったです。問題を一つずつ計算方法を順序ごとに説明していたところが解き方までしっかりと把握できてとても助かったと思います。」(設問3, 設問6に該当)

上記と類似の回答も多いことから、学生の視点に立った授業の工夫が重要と考えられる。「説明のわかりやすさ」と「スライドの見やすさ」についての回答も多くあり、学生達の授業評価のポイントになっていると考えられる。

また、「社会に出た時に必要な内容がたくさんあってとても興味のある内容だった」「経済を全体的に見れるようになったと思う」という回答もあり、これらは設問10に該当するものと思われる。

【授業改善への活用方法】

・教授会において、回収率と各設問への回答結果を報告する。自由回答についても、好評であった取り組み例を紹介する。

・次年度以降のFD活動において、授業アンケート結果から授業改善につながるポイントを共有する機会を設ける。

2025 年度後期授業アンケート報告書

経営学部

<p>【実施期間】2025 年 12 月 11 日～2026 年 2 月 6 日</p> <p>【実施科目数】121 科目</p> <p>【回答率】21%</p>
<p>【結果の概要・分析】</p> <p>2025 年度後期の授業アンケートは、2025 年 12 月 11 日から 2026 年 2 月 6 日にかけて実施された。本学部の回答率は 21.0%であった。この数値は、前年度(2024 年度後期)の回答率 12.0%と比較して約 9 ポイントの上昇を示しており、アンケート実施体制の改善による一定の成果が確認される。</p> <p>次に、数値データに基づく量的分析を行う。シラバスの活用状況に関する設問 1(履修登録前のシラバス確認)において、学部平均値は 3.13 であり、全学平均値の 3.08 を上回った。この事実から、経営学部の学生は他学部の学生と比較して、履修登録段階でのシラバス確認をより励行していると解釈される。一方で、その他の設問においては、学部平均値が全学平均値を下回る傾向が見られた。具体的には、設問 2(シラバスに沿った授業進行)では学部 3.34 に対し全学 3.42、設問 3(教員の説明の分かりやすさ)では学部 3.30 に対し全学 3.37、設問 5(授業の工夫)では学部 3.29 に対し全学 3.40 となっている。乖離が顕著なのは、学生自身の学習行動に関する設問 9(授業時間外学習)である。同設問の学部平均値は 2.79 であり、全学平均値の 2.97 を 0.18 ポイント下回っている。このデータは、経営学部生において予習・復習といった自律的な学習習慣が定着していない現状を示唆している。また、学習成果に関する設問 7(新しい知見の獲得)は学部 3.31 に対し全学 3.44、設問 10(将来の役立ち)は学部 3.27 に対し全学 3.42 であり、学生が授業から得られる知的刺激や実用的価値を、全学平均ほどには実感できていない可能性が推察される。</p>
<p>【授業改善への活用方法】</p> <p>①設問 9 で浮き彫りとなった授業時間外学習の不足を解消するため、学部全体として自律学習を促す取り組みを強化する。具体的には、シラバスにおける予習・復習課題の明記を徹底するとともに、LMS(Moodle 等)を活用した小テストや課題提出を積極的に導入することで、学生が授業外で学習せざるを得ない環境を構造的に構築するよう、教授会を通じて教員に働きかける。</p> <p>②設問 5 や設問 7 などで見られた全学平均との乖離を縮小するため、教育効果の高い授業実践の共有を図る。自由記述で高く評価されたような、学生の関心を引きつける対話型の授業や、実務・語学を交えた実践的な指導方法について、FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の一環として学部内で事例共有を行い、各教員の授業改善の参考とする。</p>

2025 年度後期授業アンケート報告書

人文学部

【実施期間】2025 年12月11日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】66科目

【回答率】17.0%

【結果の概要・分析】

人文学部の後期授業アンケートの回答者数はのべ712名、回答率は17.0%であった。後期は設問2、5が全学平均と同じ、設問6、8、9、10では全学平均を下回っている。設問1の結果より、人文学部の学生はシラバスを事前に読んで講義を選択している学生が多いことがうかがえる。教員に対する要望として、設問6（学生の理解度を把握できているか）における批判的な評価が目立った。学生の理解度に応じた授業の進行が求められていることがうかがえる。一方で設問9（授業時間外学習に取り組んだか）については、改善は進んでいるものの、いまだに約3割以上の学生が「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えており、全学平均も下回ることから、工夫の必要があると考えられる。人文学部の学問範囲が広いことは、学部の特長であると共に、幾つかの設問での批判的反応の一因となっているものと考えられる。

設問ごとの結果は以下の通りである。

・設問1（あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか）

学部平均 3.37で全学平均 3.08を上回る。回答者の92%が「やや当てはまる」、「よく当てはまる」と回答しており、大半の学生は履修登録前にシラバスを読んでいるとみられる。

・設問2（あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか）学部平均 3.42で全学平均 3.42 と同じである。7%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。

・設問3（あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか）学部平均 3.41 で全学平均 3.37を上回る。7%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているが、これは前述の学問範囲が広いことも一因と考えられる。

・設問4（あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか）学部平均 3.44で全学平均 3.43を上回る。7%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているが、概ね、学習にふさわしい環境が提供できている。

・設問5（あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか）学部平均 3.40で全学平均 3.40と同じである。8%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。学問範囲が広いだけに、学生の理解に向けた教員の工夫が必要であると考えられる。

・設問6（あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか）学部平均 3.34 で全学平均 3.36 を下回る。9%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答した。他の項目と比較して不満がよく現れた点であり、改善が必要である。

・設問7（あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方をすることはできましたか）学部平均 3.49 で全学平均 3.44 を上回る。95%が「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と回答しており、多くの学生が授業を通じて新たな知見を獲得できていると考えられる。

・設問8（あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか）学部平均 3.37で全学平均 3.39を下回る。全学平均を下回っているものの 93%が「よく当て

はまる」、「やや当てはまる」と回答しており、大半の学生が意欲的に取り組んでいる。

・設問9(あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか)

学部平均 2.83で全学平均 2.97を下回る。33%の学生が「全く当てはまらない」、「あまり当てはまらない」と回答しているものの、前期の41%より改善しており、学生への指導の成果はあがっていると考えられる。

・設問10(あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか)

学部平均 3.36で全学平均 3.42を下回る。ただし、この設問で問われている将来性という概念にはやや曖昧な点が認められるので、具体的な評価は避ける。

・自由記述欄について

授業がわかりやすかったなどのポジティブなコメントと、改善要望を伝えたいコメントとに分かれる。教員の丁寧な解説や、課題等へのフィードバックに対しては、教員の配慮や工夫を感じる学生が多い。アンケートの設問6で、担当教員が学生の理解度を把握していないように感じるという学生が一定程度いるのは、このフィードバックの有無と関係する可能性があり、検討の余地がある。また改善要望は具体的な説明が多く、学生がどのような講義を望んでいるのかわかることから、担当教員もすぐに対応できるケースが多いと考えられる。

【授業改善への活用方法】

教員は個別に授業アンケートの結果を確認し、次年度以降の授業改善に活用しているほか、可能な場合はフィードバック(自由記述欄への返答)等を行っている。

2025 年度後期授業アンケート報告書

心理学部

【実施期間】2025 年 12 月 11 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】19 科目

【回答率】11.4%

【結果の概要・分析】

回答率については、2025年前期の31.8%(28科目)から大幅に減少し、11.4%(19科目)となった。前期に比べて授業科目が少ないのにも関わらず、回答率が減少したこと、前年度の後期においても同様に15.9%と減少していたことから、後期科目における授業アンケートの周知方法について再考すべきであるかもしれない。

内容については、例年と同じく、授業の意義や満足度、望ましさに関する質問の回答において、肯定的な(「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」)回答が多かった。設問2「あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか」、設問4「あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか」、設問7「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方をすることはできましたか」、設問10「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」などについては、「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」と回答した学生が90%を超えており、シラバス、学習環境の提供、授業内容の提供については、引き続き高い評価がなされていると言える。

一方、設問9「あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」については、「1.そう思わない」「2.あまりそう思わない」といった回答が合わせて38%となっており、前期の46%よりは改善が見られたが、引き続き課題と言える。

自由記述では、前期に引き続いて、授業内の小テスト、具体例を用いた授業に関して一定の評価が得られているものの、今回はスライドや配布資料の分かりにくさや、資料と説明との不一致についてのコメント等が目立った。これは、設問3「あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか」への回答が、他と比べて比較的低いこととも関連しているかもしれない。

【授業改善への活用方法】

前期の授業アンケートの自由記述にもとづき、好評だった授業での取り組み事例などをFD研修会(2025/10/1)において学部内で共有したように、後期の授業アンケート結果についてもFD研修会(2026/3/11)授業の工夫に関する要望と授業運営の改善点について議論した。特に、小テストの方法やAIの利用についてなど活発な議論があった。また、教授会(2026/3/4)においても、授業アンケート結果を報告し、アンケート回答率を上げる方法について学部で共有した。

2025 年度後期授業アンケート報告書

現代社会学部

【実施期間】2025 年 12 月 11 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】76 科目

【回答率】17.6%

【結果の概要・分析】

1. 概要

現代社会学部では、後期セメスターに開講された76科目を対象に授業アンケートを実施した。昨年度後期と比べ、対象科目が15科目減少したが、それは回答者のプライバシー確保のため、対象者が10名に満たない科目は除外したからである。対象者4705名のうち826名がアンケートに回答した。回収率は17.6%であり、昨年度後期と比べ若干改善したが、大学全体の回答率25.68%よりも低い結果となった。学部教員に対して、授業スライドやLMSでアンケートの周知を要請し、また、窓口を担当する非常勤教員への周知もあわせて依頼したが、周知徹底が不十分であったと考えられる。また、前期(21.4%)と比較しても回答率は低下した。その原因としては、冬季休業期間を挟むためであると考えられるが、さらなる回答促進策の検討が必要である。

2. 回答傾向

アンケートには11の設問があり、そのうち設問1-10は授業内容や進行に関する具体的な評価を問うものであった。設問9を除いて「3.ややあてはまる」「4.よく当てはまる」が全体の8割を超え、多くの項目で学士課程全学平均を上回る結果となった。特に、内容を理解するための工夫、新しい知見や考え方の提示、将来役に立つと思えるような授業の提供に関する項目で高スコアをマークしており、各教員の授業に向けた準備・工夫の成果であると言えるだろう。一方で、授業時間外学習に関するスコアが3を下回っており、予習・復習を促すような取り組みを促していく必要がある。

3. 自由記述(設問11)の回答傾向

自由記述欄では、授業の工夫に関するポジティブな意見と、授業運営に対する不満点の両方が寄せられた。

(1) ポジティブな意見

- ①具体的な例や動画を活用することで授業の内容が理解しやすくなった。
- ②匿名での質問を受け付けたり、チャトルカードを利用して教員とコミュニケーションを図ることができた。

(2) 授業運営に関する不満点

- ①特にスライドを使用した授業において、授業ペースが早すぎる。
- ②私語に対して注意してほしい。
- ③外部講師によって内容の分かりやすさや授業方式が異なった。

【授業改善への活用方法】

- ①アンケート回答率の改善に向けて、特に非常勤講師への周知方法の見直しが必要である。教務センターと連携して周知徹底する方途を模索する。
- ②FD 研修などを通じて寄せられた意見を共有し、今後の授業改善に向けて活用する。
- ③不適切な学習環境が、授業に真摯に取り組む学生のモチベーション低下につながることを示唆する意見が多く見受けられた。出席の取り扱いや私語に対する注意の仕方などについて、教員間で意見交換する機会を設ける。

2025 年度後期授業アンケート報告書

グローバル・コミュニケーション学部

【実施期間】2025 年 12 月 11 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】52 科目

【回答率】50.1%

【結果の概要・分析】

2025 年度後期の授業アンケート結果を分析すると、全体的に学生の授業に対する評価は引き続き安定して高い水準にあることがわかる。多くの設問で肯定的な回答（「4」および「3」の合計）が約 90%前後を占め、平均値も 3.4～3.5 台で推移している。

評価項目から 全体として高い満足度が維持されている一方で、設問 1（シラバスに関する項目；平均 3.11）や設問 9（授業時間外学習に関する項目；平均 3.14）など、肯定的な回答が 78%に留まる項目も見られた。前期のアンケート結果において「シラバスの活用」に関する評価が相対的に低かった傾向を踏まえると、設問 1 においても引き続き、学生のシラバス確認や授業外学習といった主体的な学習姿勢に課題が残っていることが伺える。また、設問 9 のスコアが伸び悩んだ点については、自由記述に寄せられた「専門用語や難解な概念が多く含まれる」という声とも符合しており、授業内容の難易度や学習のペースに対して、一部の学生がハードルを感じていることを示唆している。

自由記述から 自由記述からは、以下のような点が高く評価されていることがわかる。

- Kahoot!や YouTube、OneDrive などの ICT ツールを活用した授業
- Journal free writing などのアウトプットを促す取り組み
- 特定の学問分野（心理学など）に対する知的好奇心を刺激する授業展開（「授業が面白かった」「関心が高まった」などの意見）

一方で、専門用語や難解な概念が多く含まれる授業に対し、「学生向けの質問フォームを作成してほしい」という具体的な改善要望も寄せられた。これは、前述のスコアが相対的に低かった項目の背景にある、学習内容の理解に対するサポートの必要性を表していると考えられる。

【授業改善への活用方法】

・授業アンケート結果から、授業の工夫に関する要望と授業運営の改善点について学部内で議論した。学部内で提案された意見は以下の通りである。

質問しやすいサポート環境の構築 自由記述で寄せられた要望に直接応え、難解な専門用語や概念について学生が気軽に質問できるオンラインの質問フォームや、授業内の Q&A システムなどの導入を推奨する。これにより、学習上のつまずきを早期に解消し、内容の理解度を深める。

ICT ツールと実践的学習の成功事例共有 Kahoot!等の ICT ツールの活用や、「Journal free writing」などの主体的な学習を促す取り組みが学生から高い評価を得ている。次年度以降に可能性があるカリキュラム改編等を見据え、FD 研修等の場を活用し、これらの効果的な教育手法やベストプラクティスを学部内で共有することで、新しいカリキュラムにおける教育の質向上に繋げる。

シラバス活用の継続的な促進と目標の明確化 前期からの課題であるシラバスの活用を引き続き促進する。特に専門用語が多く難易度の高い内容を扱う授業においては、シラバスを通じて授業の目標や到達度をより明確に示し、学生が学習の見通しを立てやすいよう工夫する。

以上

2025 年度後期授業アンケート報告書

総合リハビリテーション学部

【実施期間】2025 年 11 月 6 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】30 科目

【回答率】32.9%

【結果の概要・分析】

・総合リハビリテーション学部の後期授業アンケートの回答率は 32.9%であった。全学部の回答率の平均が 25.7%で、本学部はその値は上回っているものの、実施割合は高いとはいえ、前期授業アンケートの回答率(43.7%)を下回った。アンケートの実施については、FD 委員からアンケート対象科目の一覧を添付し学部教員にメールで周知したが(リマインドメールを含む)、授業時間内での実施が徹底できていなかったことが、今回の回答率が低かった要因のひとつであると考えられる。

・授業アンケートの内容では、すべての設問において「よく当てはまる」「やや当てはまる」といったポジティブな回答の割合が高く、両者を合わせると回答者の 8~9 割程度を占めた。全体としては特に「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか」「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」という設問においては、ポジティブな回答割合が全体の 96%であった。

・「あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか」の設問については、「全くあてはまらない」「あまり当てはまらない」のネガティブな回答割合が 21%、「あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」では 18%であり、今回の設問の中では高い値を示した。この傾向は前期授業アンケートと同様であり、授業内容への理解と知識の定着をより深めるために、授業時間外の学習時間を確保するための動機付けが各授業において必要であると考えられる。

・自由記述の回答では、各教員の授業における工夫や配慮に気づき、「理解しやすかった」等の授業に対する好意的なコメントが多く見受けられた。特に、授業で配布するレジュメやプリント、視覚教材、講師の臨床経験の語り、グループワークの実施などが、学生に好意的に受け取られていた。

【授業改善への活用方法】

・総合リハビリテーション学部は理学療法学科、作業療法学科、社会リハビリテーション学科の各学科で教育内容や実習形態が異なるため、学科単位で詳細な振り返りと検討を行うことが効果的と考えられる。本アンケート結果をもとに、視覚教材を使用した講義、グループワークといったアクティブラーニングの実施など、学生に好評であった取り組みや各教員の授業における工夫を共有することで、学部全体の教育の質のさらなる向上を図っていく。

・FD 活動において、研修会のテーマを検討する際の参考資料とする。

2025 年度後期授業アンケート報告書

栄養学部

【実施期間】2025 年 11 月 6 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】76 科目

【回答率】55.7%

【結果の概要・分析】

昨年度後期および今年度前期に引き続き、今年度後期も、一部のオムニバス科目や学外実習を除いた、専任教員および非常勤講師が栄養学部で実施するすべての科目（76 科目）について授業アンケートを実施した。実施期間は 2025 年 11 月 6 日から 2026 年 2 月 6 日である。実施方法は、今年度前期と同様に各講義・実習内にてアンケートを回答してもらう形式を採用した。具体的には、FD 委員が事前に準備した授業アンケートに関するパワーポイントスライドを講義・実習内で提示し、5 分間程度の時間を設けて学生に回答してもらうという統一した方法で行った。

アンケート結果は、実施科目履修者数（のべ人数）3,506 人のうち、1,953 人が回答し、回答率は 55.7%となった。今年度前期（66.4%）と比較すると回答率はやや低下したものの、全学平均（約 25.7%）と比較すると高い水準を維持しており、授業内での回答時間確保による取り組みが一定の効果を上げていると考えられる。

具体的なアンケート結果については、「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか？」（3.44 ポイント）および「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか？」（3.45 ポイント）といった学生の学びや将来への有用性に関する設問において、引き続き高い評価が得られた。

自由記述コメントにおいても、「説明が丁寧で分かりやすかった」「図やイラストを用いた説明が理解しやすかった」「小テストや問題演習によって理解が深まった」「実験や実習を通して学ぶことができた」「授業動画や Moodle 資料が復習に役立った」など、授業内容や教員の工夫に対する肯定的な意見が多数みられた。

一方で、「授業の進行速度が速く理解が難しい」「課題やレポートの量・評価基準が分かりにくい」といった授業運営に関する意見に加え、教員の発言や授業中の対応について改善を求める意見も一部見られた。これらの意見についても真摯に受け止め、今後の授業改善につなげていく必要があると考えられる。

【授業改善への活用方法】

授業アンケート結果については、学生から寄せられた自由記述コメントを含めて学部内で共有し、特に評価の高かった授業の取り組み事例（図表を用いた説明、小テストや演習の活用、Moodle 等を用いた学習支援など）について教員間で情報共有を行い、各授業の改善に活用する予定である。

また、授業アンケート結果から、授業運営に関する改善点についても学部内で検討を行い、以下の点について今後の授業改善に活かしていくことの確認を行う。

- ①授業スライドや配布資料の見やすさの向上や、図表・イラスト等を活用した説明の工夫
- ②小テストや演習問題などを活用した学生の理解度確認と授業内フィードバックの充実
- ③課題やレポートの内容・評価基準の明確化および授業進行速度への配慮

なお、今年度前期には講義期間の中間以降に授業アンケートを実施し、その結果を講義期間

内の授業改善に活用する取り組みを試行したが、現在のアンケートシステムでは自由記述コメントが期末にならないと閲覧できない仕様となっていることから、講義期間中の授業改善に十分活用することが難しいという課題が明らかとなった。この点については前期終了後の教授会にて共有し、後期は基本的に最終授業回またはその 1 回前に授業アンケートを実施することについて教授会の承認を得ている。

2025 年度後期授業アンケート報告書

薬学部

【実施期間】2025 年 11 月 6 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】140 科目

【回答率】25.0 %

【結果の概要・分析】

授業アンケートの回答率の向上を目指し、今年度から授業時間内にアンケート回答時間を設けるよう、全学教育推進機構からの通知に加えて、教授会でも周知し、メールでの周知も行っている。薬学部の 2025 年度後期の回答率は 25.0%であり、前年度(16.8%)よりも改善されたが、今年度前期の回答率(28.6%)からは少し低下した。アンケートの実施が難しい科目(実習、再履修科目、オンデマンド方式の選択科目など)も対象となっているため回答率の平均値は低くなっている。教授会やメールでの周知によって、さらなる改善を図りたい。

アンケートの設問毎の平均値を全学の平均値と比べると、設問 1(シラバスを読んだか)について全学平均よりも若干下回る値であった。他の設問はほぼ全学平均と同レベルであり、全体として薬学部の授業内容について、特段の問題点は抽出されなかった。薬学部はほとんどの科目が必修あるいは選択必修であり、シラバス確認の必要性が少ないのかもしれない。薬学部独自の設問(設問 12~14)について、設問 12(授業の難易度は適切でなかった場合の理由)をみると、情報が多すぎる、授業範囲が広すぎる、との回答が多かった。これについては、学習すべき内容が薬学モデルコアカリキュラムに定められているため改善は難しいが、より理解し易い授業に努めることが期待される。

【授業改善への活用方法】

薬学部では毎年度、各教員が担当科目の授業アンケートの結果や単位習得状況などを踏まえて自己点検・評価書(教員レベルの自己点検評価)を作成し、その中で各教員が担当科目の振り返りを行い、必要に応じて改善策を検討・記載こととしている。また、各教員から提出された自己点検・評価書は薬学部内部質保証推進委員会において検証し、問題点があれば学部長から各教員にフィードバックすることとしている。これらの取り組みによって、授業の改善につながることを期待される。授業アンケートの数値の経年変化などは検討できていないが、今後検討していきたい。

2025 年度後期授業アンケート報告書

共通教育センター／スポーツサイエンス・ユニット

【実施期間】2025 年 12 月 11 日～2026 年 2 月 6 日

【実施科目数】共通教育 718 科目 / スポーツサイエンス・ユニット 9 科目

【回答率】共通教育 29.8% / スポーツサイエンス・ユニット 24.8%

【結果の概要・分析】

■ 共通教育の特徴

回答率 29.8%は全学平均(25.68%)を上回っている。回答についても、設問1(シラバスを読みましたか)・設問9(授業時間外学習)を除く項目は高評価(「どちらかと言えばそう思う」+「そう思う」を合計した肯定率 91~94%)であり、授業運営の質が安定して高く、新しい知見の獲得や授業の有用性も高評価といえる。これらは、非常に多くの教員がかかわる共通教育科目において、非常勤講師を含めた教員の授業への取り組みが反映しているものと思われる。

回答率のさらなる向上、設問1・9にみられる学生自身の取り組みに対しては、改善の余地が見られる。

■ スポーツサイエンス・ユニットの特徴

回答率 24.8%は全学平均に近く、2025 年度後期(6.7%)より大幅に改善した。回答についても、設問7「新しい知見を得た」の項目が最も高く(肯定率 97%)、学習内容の納得度が非常に高い。授業への積極的参加も高く、学生のエンゲージメントが強い。他の項目も総じて高評価で、授業運営の質は安定していると思われる。

共通教育と同様、「シラバス」「予習・復習」の項目の値は相対的に低く、学外学習支援が課題であるといえる。

■ 記述回答から見られる傾向

1413 件の記述回答を生成 AI で自動分類すると、簡易的な感情内訳(「肯定」「中立」「改善」)では多い順で「中立」-「肯定」-「改善」となった。高頻度で言及されているのは「わかりやすさ・説明」「課題・負担感」「教材・メディア」だった。肯定的な代表コメントでは「説明がわかりやすかった」「課題は多かったが収穫が多かった」、改善を求める代表コメントとしては「授業中の私語・スマホ使用が気になった」があった。

【授業改善への活用方法】

記述回答からは、語学系ではペア/グループワーク・小テスト・発表が学習の核になっている様子がうかがえ、かつ授業冒頭でのスモールトークや教員の体験談、外部からのゲストスピーカーなど、学生にとって具体的で身近と感じる内容が学習意欲の向上につながると思われる。それらを共有し、また生成 AI による改善案(「課題設計の粒度調整」:負担の指摘が出やすいグループ(ICT・文章表現など)は、15-20 分で完結する事後課題とモデル回答/採点観点の明確化で納得感を担保。「教室環境の即応」:照度(スクリーン前のライト)、音量/発話の明瞭さ、私語・スマホの規律アナウンスを最初の5分で統一運用)を共有し、意見を交換した。